

京都府立医科大学附属病院認知症疾患医療センターの取組

○基幹型認知症疾患医療センターとして京都府と協力して認知症施策を推進するとともに、地域で多職種連携につながる研修会等を開催

【担当圏域の基礎情報】（令和2年3月31日時点）

	京都府（京都市含む）	京都・乙訓医療圏
人口	2,538,310	1,560,839
高齢者人口（高齢化率）	738,252人(29.1%)	437,168人(28.0%)
市町村数	26	4
認知症疾患医療センター数	9	3

【認知症疾患医療センターの概要】（令和2年度実績）

類型	基幹型
医療機関種別（設置主体）	一般病院（都道府県）
専門医療相談件数	874件
主な相談者（割合上位3位）	家族・介護者(63%)、本人(26%)、医療機関(10%)
鑑別診断件数	49件
診断時の認知症重症度（ODR）（割合上位3位）	認知症の疑い(43%)、軽度認知症(29%)、なし(23%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年2回程度、府との共催により、府内のセンター及び保健医療関係者と開催。
（②テーマ：新型コロナウイルス蔓延下における取組、若年性認知症支援他）

<研修会の実施>

- ・北・上認知症カンファレンス

<その他（講師派遣・市町村支援等）>

- ・認知症対応力向上研修（5回）
- ・若年性認知症就労継続支援（1回）
- ・若年性認知症自立支援ネットワーク会議（1回）
- ・京都市地域密着型サービス等研修（1回）
- ・京都府認知症初期集中支援チーム連絡会・スキルアップ研修（1回）
- ・認知症リンクワーカー養成研修
- ・認知症にやさしい異業種連携協議会
- ・若年性認知症の人の介護家族交流会
- ・DLBサポートネットワーク
- ・京都市市民後見人養成講座
- ・舞鶴医療センター、京都中部総合医療センターでの診療 他

【取組① 認知症疾患医療センター研修セミナーの開催】

- ・2012年度から、年に1回、認知症疾患医療センター行動アセスメント研修セミナーを主催。
- ・医師、看護師、作業療法士、心理士等に講師を依頼。様々な視点からその時々合ったテーマで講演を行うことにより、多職種の参加につながり、地域での生活をサポートするための人材育成につながっている。
- ・医師、心理士、ケアマネジャー、その他認知症ケアに関わっている方を対象。参加者は80名前後。
- ・2020年度は開催中止
- ・2021年度は未定



【取組② 認知症初期集中支援チームへの協力】

- ・2017年度から、京都府内の認知症初期集中支援チームの運営状況、問題点、工夫点を把握し、基幹型センターとしてサポートするため、精神保健福祉士がチーム員会議、検討委員会の視察を行っている。検討委員会では、問題点を解決できるよう他チームの工夫点の提案や助言を行っている。（現在は新型コロナウイルスのため休止）
- ・認知症初期集中支援チーム連絡会に医師と精神保健福祉士が参加し、チームの状況把握やチーム員との交流をおこなっている。
- ・京都府主催の認知症初期集中支援チーム員養成研修に医師・精神保健福祉士が講師として参加している。

【取組③ 軽度行動障害に関する啓発活動】

- ・軽度行動障害(Mild Behavioral Impairment; MBI)は、認知症にはなっていないが、50歳以降から始まる行動または性格の変化を認め、少なくとも6か月以上持続する場合に診断がつけられ、MBIがあると認知症になりやすいと考えられている。
- ・2021年度から、左京区認知症初期集中支援チームと連携をとり、MBIに関する研究を行っている。その一環として、MBIの啓発活動を行う予定にしている。

西山病院認知症疾患医療センターの取組

○地域の専門医療機関として認知症初期集中支援チームに協力するとともに、初期認知症の方や家族への支援や行政と協力した住民向け啓発活動も実施。

【担当圏域の基礎情報】（令和2年3月31日時点）

	京都府（京都市含む）	京都・乙訓医療圏
人口	2,538,310	1,560,839
高齢者人口（高齢化率）	738,252人(29.1%)	437,168人(28.0%)
市町村数	26	4
認知症疾患医療センター数	9	3

【認知症疾患医療センターの概要】（令和2年度実績）

類型	地域型
医療機関種別（設置主体）	精神科病院（個人）
専門医療相談件数	647件
主な相談者（割合上位3位）	家族・介護者(33%)、医療機関(30%)、介護保険事業所(22%)
鑑別診断件数	95件
診断時の認知症重症度（ODR）（割合上位3位）	なし(48%)、軽度認知症(33%)、中等度認知症(14%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・管内市町や保健医関係者と開催。

<講師派遣・市町村支援等>

- ・長岡京市認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加12回）

【取組① 乙訓地域認知症疾患医療連携協議会】

10月2日 管内市町や保健医関係者と開催。

- ・ 認知症疾患医療センターの実績報告
- ・ 認知層初期集中支援チーム活動報告
- ・ 認知症カフェの活動報告
- ・ コロナ禍での活動状況の共有

以上の点について、各市町での活動の特徴を確認し、コロナ禍でも工夫をしながら活動を続けていくことを確認しました。

【取組② 認知症初期集中支援チームへの協力と参加】

・ 向日市認知症初期集中支援チームへの協力

市域における課題の把握や支援体制のあり方などの検討会に出席しました。

・ 長岡京市認知症初期集中支援チームへの参加

月1回開催されるチーム員会議にチーム員として、支援方針、対応方法などの検討に参加しています。

今年度は、コロナ禍のため感染拡大予防を最優先しました。結果、活動を縮小したり、開催方法を変更するなど、自粛せざるを無い活動が多くありました。

・ 乙訓地域認知症疾患医療連携協議会の開催

2回開催予定のところ、1回開催に自粛しました。

・ 認知症家族交流会

年2回ほど開催していましたが、中止いたしました。

・ 認知症初期集中チーム会議の開催

書面会議を導入し、対面状況を回避いたしました。

・ 西山病院家族教室

3回開催予定のところ、全回中止いたしました。

京都府立洛南病院認知症疾患医療センターの取組

○認知症当事者の伴奏者として、地域住民とともに認知症にやさしいまちを考えるグループミーティングを開催。

【担当圏域の基礎情報】（令和2年3月31日時点）

	京都府（京都市含む）	山城北医療圏
人口	2,538,310	434,845人
高齢者人口（高齢化率）	738,252人(29.1%)	129,088人(29.7%)
市町村数	26	7
認知症疾患医療センター数	9	2

【認知症疾患医療センターの概要】（令和2年度実績）

類型	地域型
医療機関種別（設置主体）	精神科病院（都道府県）
専門医療相談件数	2,941件
主な相談者（割合上位3位）	家族・介護者(34%)、介護保険事業所(32%)、医療機関(16%)
鑑別診断件数	159件
診断時の認知症重症度(CDR)（割合上位3位）	中等度認知症(33%)、重度認知症(24%)、認知症の疑い(22%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年3回程度主催で開催。（②テーマ：認知症疾患医療センター実績報告、市町村の取組状況共有他）

<研修会の実施>

- ・宇治市認知症ケアネットワーク（3回）
- ・認知症家族支援プログラム（1回）
- ・洛南病院認知症本人・家族教室（10回）

<その他（講師派遣・市町村支援等）>

- ・れもねいど推進協議会（4回）
- ・宇治市認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加24回、検討会3回）
- ・城陽市事例検討会（4回）
- ・若年性認知症支援プログラムの実施

【取組① 洛南病院認知症本人・家族教室の開催】

- ・認知症とともに住み慣れた場所で安心して暮らせるよう、本人・家族に情報を提供する目的でR2年度から開催している。（R2年度は10回開催）
- ・本来は、周囲から孤立・孤独に陥っていきがちな本人・家族の交流の場を提供する目的の場としても開催する予定だったが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、R2年度は1回の開催につき、本人1人とその家族のみを対象として開催し、必要に応じての随時開催とした。
- ・毎回医師、看護師、精神保健福祉士が参加し、京都府作成のスライドを使用して講義を行った。一方的な講義ではなく、本人・家族と対話しながら講義をすすめ、専門職とじっくり相談をしていただく機会を持つことができた。

【取組② 宇治市認知症ケアネットワークの開催】

- ・H24年度から管内の地域包括支援センター、行政機関、医療機関、家族会等を対象に認知症に対するアセスメント力や対応力の向上を目的として事例検討会を開催している。（R2年度は3回開催）
- ・H23年度に宇治市・宇治久世医師会と作成したツール「物忘れ連絡シート」や「KN式認知症ケアパス情報共有シート」を活用して検討している。
- ・地域包括支援センターから提供された事例をもとに参加者全員で検討して医師からの助言を得る作業の蓄積が、地域包括支援センターが独自で判断できる力を向上させている。

【取組③ 認知症初期集中支援チームへの協力】

- ・H25年度から宇治市の認知症初期集中支援チーム（地域包括支援センターに設置）に認知症疾患医療センターの医師（サポート医）と精神保健福祉士がチーム員として参画し、専門的見地から助言等を行い、必要に応じて診断・治療も行っている。（R2年度は初期集中支援チーム員会議24回、初期集中支援チーム検討委員会3回開催）

宇治おうばく病院認知症疾患医療センターの取組

○研修会の開催、地域の会議への積極的な参加により地域連携を推進するとともに、精神科病院として身体管理が必要な患者の対応ができる体制を構築。

【担当圏域の基礎情報】（令和2年3月31日時点）

	京都府（京都市含む）	山城北医療圏
人口	2,538,310	434,845人
高齢者人口（高齢化率）	738,252人(29.1%)	129,088人(29.7%)
市町村数	26	7
認知症疾患医療センター数	9	2

【認知症疾患医療センターの概要】（令和2年度実績）

類型	地域型
医療機関種別（設置主体）	精神科病院（医療法人）
専門医療相談件数	1,973件
主な相談者（割合上位3位）	家族・介護者(55%)、医療機関(22%)、介護保険事業所(12%)
鑑別診断件数	133件
診断時の認知症重症度（CDR）（割合上位3位）	中等認知症(21%)、重度認知症(18%)、認知症の疑い(18%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

＜協議会の開催＞

- ・年2回程度主催で開催。（②テーマ：認知症疾患医療センターの運営状況、各行政区の取り組み等）

＜研修会の実施＞ 感染対策のため実施出来ず

- ・病院認知症対応力向上研修
- ・認知症疾患医療センター主催研修
- ・認知症サポーター養成講座

＜その他（講師派遣・市町村支援等）＞

- ・認知症フォーラムin宇治
- ・れもねいど推進協議会
- ・宇治市認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加 12回、検討会 3回）
- ・京田辺市認知症初期集中支援チーム（検討会 1回）
- ・井手町認知症初期集中支援チーム（検討会 1回）
- ・宇治田原町認知症初期集中支援チーム（中止）
- ・病院機関誌により認知症ケアのあり方を普及 他

【取組① 顔の見える関係づくり】

- ・認知症疾患医療連携協議会を年2回開催しており、担当圏域の行政機関、地域包括支援センター、医師会、認知症の人と家族の会、連携病院の方たちにご参加いただき、各機関の情報を共有し意見交換を重ねている。それにより、横の繋がりが強化され、圏域内での相互のやり取りも生まれてきている。
- ・地域の介護施設や介護保険事業所などの要請に応じて講師派遣をしている。また、意見交換や事例検討会などにも積極的に参加することで、医療と介護の連携が進むよう取り組んできている。



認知症疾患医療連携協議会の様子

【取組② 一般病院・かかりつけ医との連携】

- ・当院には内科常勤医が複数名勤務している。さらに、専門病棟である「認知症治療病棟」を有し、認知症の症状に応じた専門治療も行っている。そのため、一般病院で対応困難とされる身体管理が必要な認知症患者の転院を受け入れることができている。
- ・地域のサポート医やかかりつけ医との日常的な関係作りを意識し、診療情報提供書のやり取りだけでなく、定期的に足を運ぶようにもしている。
- ・一般救急病院との連携に病院として取り組んでおり、日常的に一般救急病院との顔の見える関係作りを行っている。

【取組③ 認知症初期集中支援チームへの協力等】

- ・宇治市では8か所ある地域包括支援センターのうち2か所に認知症コーディネーターを配置し認知症初期集中支援チームを実施している。平成25年の認知症初期集中支援チーム発足当初から、当院認知症疾患医療センターの医師とPSWがチーム員として参画している。
- ・担当圏域において年1～2回開催される運営委員会に参加し、ケースの実際の動きを共有している。その際、チームのあり方や対応などについて、専門的な立場からの助言を行っている。

京都山城総合医療センター認知症疾患医療センターの取組

○認知症対応力向上のための研修会の開催や認知症カフェへの協力を通じて地域と連携するとともに、認知症家族教室を開催。

【担当圏域の基礎情報】（令和2年3月31日時点）

	京都府（京都市含む）	山城南医療圏
人口	2,538,310	123,399人
高齢者人口（高齢化率）	738,252人（29.1%）	31,830人（25.8%）
市町村数	26	5
認知症疾患医療センター数	9	1

【認知症疾患医療センターの概要】（令和2年度実績）

類型	地域型
医療機関種別（設置主体）	一般病院（市区町村）
専門医療相談件数	224件
主な相談者（割合上位3位）	家族・介護者（82%）、本人（13%）、地域包括支援センター（5%）
鑑別診断件数	176件
診断時の認知症重症度（CDR）（割合上位3位）	認知症の疑い（44%）、軽度認知症（35%）、中等度認知症（16%）

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年1回程度主催で開催。（②テーマ：感染症流行下における認知症の人の支援について）

<研修会の実施>

- ・認知症対応力向上研修会

<その他（講師派遣・市町村支援等）>

- ・木津川市認知症カフェ（1回）
- ・木津川市認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加12回、検討会1回）（平成29年度から）
- ・精華町認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加12回、検討会1回）（平成26年度から）
- ・相楽東部地域認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加1回、検討会1回）（平成30年度から）

【取組① 地域の関係機関と顔の見える関係作りの構築】

- ・当院で認知症の鑑別診断を受けられた患者さんのうち、関係機関との連携が必要な場合には、患者さん及びご家族に了解の上、速やかに地域包括支援センターなどの関係機関に連絡し、連携を図っている。
- ・年1回、認知症疾患医療連携協議会を開催し、地域課題などについて意見交換を行っている。



- ・山城南圏域の認知症対応力向上を目的として、認知症に関する研修会を積極的に開催している。
- ・市町村（木津川市、精華町、相楽東部）の認知症初期集中支援チーム員会議にチーム員として参加し、地域課題の把握に努めている。
- ・地域の認知症カフェにも積極的に協力し、講師派遣の他、認知症相談にも応じている。



【取組② 家族支援】

- ・数年前より認知症家族教室を開催し、介護家族の支援を行っているが、令和2年度は、コロナ禍のため休止している。



【取組③ 入院中の認知症患者さんの支援】

- ・認知症サポートチーム（認知症看護認定看護師・医師・作業療法士、臨床心理士、精神保健福祉士）が、週2回程度、病棟をラウンドし、認知症患者さんの支援について病棟看護師と意見交換を行っている。

京都中部総合医療センター認知症患者医療センターの取組

○地域医療を担う総合病院として、院内連携を促進する研修会を開催するとともに、ピサポートの場づくりとして認知症患者家族交流会を開催。

【担当圏域の基礎情報】（令和2年3月31日時点）

	京都府（京都市含む）	南丹医療圏
人口	2,538,310	133,274人
高齢者人口（高齢化率）	738,252人(29.1%)	43,303人(32.5%)
市町村数	26	3
認知症患者医療センター数	9	1

【認知症患者医療センターの概要】（令和2年度実績）

類型	地域型
医療機関種別（設置主体）	一般病院（市区町村）
専門医療相談件数	218件
主な相談者（割合上位3位）	家族・介護者(80%)、本人(16%)、地域包括支援センター(3%)
鑑別診断件数	114件
診断時の認知症重症度(CDR)（割合上位3位）	認知症の疑い(78%)、軽度認知症(14%)、中等度認知症(6%)

【認知症患者医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年1回程度主催で開催。（認知症患者医療センター実績 他）

<研修会の実施>

- ・若年性認知症研修会（せん妄についての職員研修 30名参加）

<その他（講師派遣・市町村支援等）>

- ・南丹市認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加2回）
- ・認知症患者医療センターリーフレットやホームページで認知症の啓発を実施

【取組① 南丹市初期集中支援チームへの参画】

チーム員としてセンター長が参画し、当院を会場にWEB会議を開催している。支援対象者の状況と支援経過の報告、多職種による意見交換を行い、支援方針を検討し認知症高齢者の地域生活を支援している。

【取組② 認知症疾患家族交流会】

平成30年度に初めて交流会を開催した。本来、家族間の交流を図ることにより、介護で頑張っている多くの人がいることを知ってもらい、介護上の悩みについても情報交換ができればと考えているが、2年度は開催を検討が、新型コロナウイルス感染症の問題から実施できなかった。

【取組③ 多職種研修と院内リエゾン】

当院は精神科病床のない総合病院である。認知機能の低下した高齢者の入院に伴う、せん妄等に対応するため、精神科と共同で医師や看護師、作業療法士等の多職種を対象とする研修会を開催し、入院後のせん妄の予防、早期発見及びその治療に対応している。

2年度は感染症対策の関係から院内の看護師を対象に、新規入院患者に多いせん妄について研修会を開催した。



舞鶴医療センター認知症疾患医療センターの取組

○住民向けに公開講座を開催し認知症啓発を行うとともに、専門職向けに実務担当者会議や勉強会の開催に協力し、地域の認知症対応力向上を図っている。

【担当圏域の基礎情報】（令和2年3月31日時点）

	京都府（京都市含む）	中丹医療圏
人口	2,538,310	191,085人
高齢者人口（高齢化率）	738,252人(29.1%)	61,213人(32.0%)
市町村数	26	3
認知症疾患医療センター数	9	1

【認知症疾患医療センターの概要】（令和2年度実績）

類型	地域型
医療機関種別（設置主体）	一般病院（国）
専門医療相談件数	1,705件
主な相談者（割合上位3位）	本人(37%)、家族・介護者(30%)、介護保険事業所(20%)
鑑別診断件数	56件
診断時の認知症重症度(CDR)（割合上位3位）	認知症の疑い、軽度認知症(36%)、中等度認知症(20%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年1回程度主催で開催。（②テーマ：各機関の活動報告、事業計画紹介）

<その他（講師派遣・市町村支援等）>

- ・舞鶴市認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加 4回）
- ・舞鶴市医療連携実務者担当会議（5回）
- ・舞鶴市認知症介護家族の集い
- ・管内自治体作成の認知症支援ガイドブック作成協力
- ・認知症疾患医療センター紹介パンフレットの配布 他

※公開講座・研修会は新型コロナウイルス感染拡大を受け中止

【取組① 公開講座・関係機関向け研修会の実施】

・認知症に関する啓発を目的に、広く市民に参加いただける公開講座を実施している。認知症について関心のあるすべての方を対象にしており、講演や映画上映などを通じ、正しい理解を広めることにつながっている。令和元年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大を受け実施を見合わせている。

・認知症疾患医療センター主催で、地域の介護・福祉・医療関係者向けの研修会を実施している。日頃の業務に役立つよう、基礎知識を振り返ったり、新たな知識を学習できる場となるよう、講演やグループワークなどを計画している。グループワークでは、普段は交流することの少ない様々な職種の人との意見交換の場となっている。令和元年度以降も開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け中止とした。今後、オンライン形式等での実施を計画予定である。



平成31年度関係者向け研修会

【取組② 早期診断・早期治療のための取組】

・地域医療機関や地域包括支援センター等から寄せられる受診相談に対応し、鑑別診断へつなげている。地域生活を支援する相談窓口について情報提供するなど、診断後も継続した支援を受けられるよう、機関と連携している。

・認知症に伴う行動・心理症状（BPSD）治療や薬剤調整、生活リズム調整などを目的に、必要に応じ短期間の入院治療を行っている。退院後の生活を見据え、入院中より家族、ケアマネジャー、地域包括支援センターやサービス事業所と話し合いを行い、スムーズな在宅移行を目指している。

【取組③ 実務担当者会議への参加と認知症初期集中支援チームへの協力】

・実務担当者会議では、圏域内の居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、介護サービス事業所、医療機関等の関係者が集まり、認知症施策の現状や課題を共有し、連携を図ることを目的に、事例を通じて支援方法を検討している。

認知症疾患医療センターとしても、事例提供や運営協力で参加している。テーマを決めた勉強会も盛り込まれており、新たな知識を得たり、現状の支援を振り返る機会として活用されている。

・圏域内の認知症初期集中支援チームに、チーム員として参加している。認知症疾患医療センター専門医がサポート医として協力している。介護サービスにつながらないケースは初期集中支援チームにつなぎ、自宅訪問などの支援を依頼している。

困難事例についての検討会へ参加し、受診援助を含めた助言を行っている。

京都府立医科大学附属北部医療センター認知症疾患医療センターの取組

○保健所と協力し、「若年性認知症の方と家族の交流・相談会」を開催するとともに、研修会や事例検討会に協力し、地域連携の強化を図っている。

【担当圏域の基礎情報】（令和2年3月31日時点）

	京都府（京都市含む）	丹後医療圏
人口	2,538,310	94,868人
高齢者人口（高齢化率）	738,252人（29.1%）	35,650人（37.6%）
市町村数	26	4
認知症疾患医療センター数	9	1

【認知症疾患医療センターの概要】（令和2年度実績）

類型	地域型
医療機関種別（設置主体）	一般病院（都道府県）
専門医療相談件数	1,752件
主な相談者（割合上位3位）	家族・介護者（43%）、本人（32%）、地域包括支援センター（13%）
鑑別診断件数	135件
診断時の認知症重症度（CDR）（割合上位3位）	未鑑別（57%）、認知症の疑い（30%）、軽度認知症（7%）

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

＜協議会の開催＞

- ・年1回程度主催で開催。

（②テーマ：認知症疾患医療センター事業報告と事業計画、事例紹介と意見交流）

＜研修会の実施＞

- ・若年性認知症支援研修会
- ・認知症本人・家族教室（3回）

＜その他（講師派遣・市町村支援等）＞

- ・RUN伴丹後・与謝野エリア世話人会議（コロナ感染拡大のため開催なし）
- ・若年性認知症事例検討会（2回）
- ・丹後地域オレンジロードつなげ隊圏域連絡会議
- ・認知症セミナー（コロナ感染拡大のため開催なし）
- ・宮津市認知症カフェ（1回）
- ・ふらっと伊根カフェ（1回）
- ・宮津市認知症初期集中支援チーム（検討会1回）
- ・与謝野町認知症初期集中支援チーム（検討会1回、書面報告1回）
- ・京丹後市認知症初期集中支援チーム（検討会1回、書面報告1回）
- ・伊根町認知症初期集中支援チーム（検討会 コロナ感染拡大のため開催なし）
- 他

【取組① 認知症の本人・家族への支援】

- ・平成26年度から保健所主催の「若年性認知症の方と家族の交流・相談会」（年2～3回開催）に協力し、対象者へ案内や当日の運営協力を行っている。
- ・平成28年度から当院主催（保健所が協力）で、認知症の診断を受けた家族を対象に「認知症の家族の会」を年1回開催し本人や家族の交流を行ってきた。平成31年度（令和元年度）から初期の認知症（軽度認知障害含む）の方を対象に本人・家族教室「認知症の理解を深めよう～本人・家族の勉強会」を開催。医師・薬剤師・臨床心理士等の専門職から認知症の理解や生活に役立つ情報を提供し、交流を行っている。（年3回開催）
- ・平成29年度から市町主催の認知症カフェへ協力し、参加者へのサポートや助言を行っている。
- ・本人や家族が認知症を理解し交流することで精神的不安を軽減し、必要なサービスや支援機関につながることで地域からの孤立の防止となっている。

「認知症の理解を深めよう
～本人・家族の勉強会」の様子
（講義は京都府作成のテキストを活用）



【取組② 若年性認知症支援研修会の開催】

- ・平成29年度から保健所と共催で「若年性認知症支援研修会」を開催している。対象は認知症カフェ従事者、初期集中支援チーム員、介護支援専門員、障害者生活支援センター、地域包括支援センター、行政等職員で、毎回多くの関係機関の方が参加している。
- ・若年性認知症と診断される方は毎年何名かあるが、地域の支援体制が整っておらず関係機関やサービスにつながりにくい現状がある。この研修会により地域の関係者が若年性認知症の状況を理解し、支援体制を考える機会となっている。



北山病院認知症疾患医療センターの取組

○認知症カフェ、地域ケア会議、専門職対象のワークショップ、認知症初期集中支援チームに積極的に関与し、左京区を中心に地域連携ネットワークを構築。

【担当圏域の基礎情報】（令和2年3月31日時点）

	京都府(京都市含む)	京都・乙訓医療圏
人口	2,538,310	1,560,839
高齢者人口(高齢化率)	738,252人(29.1%)	437,168人(28.0%)
市町村数	26	4
認知症疾患医療センター数	9	3

【認知症疾患医療センターの概要】（令和2年実績）

類型	地域型(30.9～)
医療機関種別(設置主体)	精神科病院(医療法人)
専門医療相談件数	996件
主な相談者(割合上位3位)	家族・介護者(34%)、医療機関(23%)、介護保険事業所(14%)
鑑別診断件数	83件
診断時の認知症重症度(CDR)(割合上位3位)	中等度認知症(37%)、重度認知症(26%)、軽度認知症(17%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

年に3回、保健医療や介護保険の関係者、認知症医療に関する有識者等から構成される認知症疾患医療連携協議会を開催し、地域の認知症に関する支援体制づくりに関する検討等を行っています。

<研修会・講師派遣等>

医療従事者を対象とした、認知症対応力向上研修フォローアップ研修や病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修において、センター担当医が出講しており、また、地域包括支援センターや地域住民を対象とした認知症カフェフォーラムにおける研修会にも参加しています。

センター主催の市民公開講座等の開催（検討中）

<その他>

- ・センター担当医が、認知症初期集中支援チーム員医師として参加
- ・京都市認知症初期集中支援事務局チーム員業務連絡会にセンター相談員が参加し、後方支援を行っている。
- ・地域ケア会議や認知症カフェへの参加
- ・若年性認知症本人交流会にセンター相談員がコメンテータとして参加

【取組① 「WITHコロナ&WITH認知症 認知症の人と家族の新しい暮らし方」デジタル冊子の発刊】

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、外出や人々との接触が制限されてしまう生活の中でも、認知症の人と家族が実践できるWITHコロナ&WITH認知症の新しい暮らし方の提案をまとめた冊子を企画。
- 認知症疾患医療連携協議会を兼ねている京都市認知症アドバイザリーボードに監修を依頼。構成団体・構成委員からの意見も取り入れ、令和3年3月より京都市認知症疾患医療センター及び京都市のホームページにてデジタル冊子として公開中。



「WITHコロナ&WITH認知症 認知症の人と家族の新しい暮らし方」公開ホームページ

京都市認知症疾患医療センター（医療法人三幸会北山病院）

https://www.sankokai.jp/group/medical_facility/kitayama/dc

京都市情報館（京都市保健福祉局 健康長寿のまち・京都推進室 健康長寿企画課）

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000181903.html>

【取組② 専門職向けオンラインセミナーの開催】

- 令和3年2月24日に専門職向けのオンラインセミナー「認知症の理解を深める～BPSDへの対応、睡眠障害やせん妄など～」を開催。
- 事前申し込み85名、当日71名の参加者であった。参加者の職種は、介護支援専門員、看護師、社会福祉士など多岐に渡り、講演後の質疑応答も活発に行われた。
- 初めてオンラインで開催する研修会であるため主催者として懸念もあったが、特に大きなトラブルはなく成功裏に終わることができた。

